

善き労働は良い眠りにいざなう

出典は定かではありませんが、私が上京してサラリーマン生活をスタートさせた、そのはるか昔から「善き労働は良き眠りにいざなう」とのフレーズを身近かに感じてまいりました。

これはあるときは「今日1日」のことであり、もっと大きく解釈すれば「私の一生」のことでもあると折々に意識してまいりました。

至近の例では、休日に庭木の手入れに精を出して、剪定くずをビニール袋に詰め終えて、今日の作業の結果としての多数の袋を前にしたりした時、必ずといってよいほど、この一文が頭に浮かびます。

また、そのときの私の思いは、今日はこれだけ「無心一途」にやるべきことを果たしたのだから、今夜は良く眠れる…と期待します。

日頃の考えや思いを捨て、ただただ庭木の手入れに集中している時間は、今の私にとって何より大切に価値のある一刻です。

今日の己れとの約束を果たし、疲れ果て安らかな眠りに入り翌朝の週の初めの早朝出勤に備えられることが出来ます。

この思いが常々私の心に在る故でしょうか、年令からして親しい友人の「お別れの会」に参列することも多いのですが、その都度故人の遺影に向かって安らかな永久の眠りをお祈りする際に、この一文が必ずと云ってよいほど浮び、貴方はこれまで十二分に働いてきたのだから・・・良い眠りについてくださいとの思いに駆られます。

もともと労働は、キリスト教では罰（ペナルティ）としての位置づけでした。しかし宗教のあり方や接し方も時代と共に変わり、今日では労働は罰（ペナルティ）との考えが「是」とはとても考えられません。私たちの時代は勤労の精神とその価値を認める社会ですので、素直に「善き労働は良い眠りにいざなう」という生き方が基本になります。これから独立・起業への挑戦を思考している方には今からこのことを意識し理解しておいて欲しいと思っております。

さて、この「起業アドバイザー便り」も本号で92号となりました。

7月中旬にはこれらを要約した **塩原勝美の「起業のいろは塾」**—新しい自分の形 独立・起業への挑戦—が法令出版株式会社より発刊されます。私自身の起業や事業歴40数年の経験のなかで実感し体験した事どもを余すところなく披露しています。若くして新しい自分の形を求め独立・起業して、これから挑戦を試みようとする方々に多く読んで頂きたいものと考えております。